

埴台遺跡で検討した荒海3式段階のものに比べると、文様単位の上下幅が圧倒的に狭い。たとえ2条の沈線によって構成されていても、これは荒海4式に位置づけるべきであろう。

これまで検討してきたように、長倉宮ノ前遺跡出土土器群のなかには、荒海3式新段階以前に位置づけるべき土器がほとんど見当たらない。他の遺跡に比べて若干前代の要素を残す部分があるが、これまで知られた資料よりも出土量が多かったから判明したという側面があるかもしれないし、実際に過渡的様相を残した部分と評価すべきかもしれない。その点については、荒海4式の細分を含めて今後の大きな課題といえるであろう。いずれにしても長倉宮ノ前遺跡は、弥生時代前期末から中期前葉の一時期を画する集落の土器群の姿を鮮明に提示してくれた。その点だけでもきわめて意義深い調査であった。

第2節 石包丁状石器について

長倉宮ノ前遺跡から出土した弥生時代の遺物のなかで、土器群以外に注目すべきものに石包丁状石器がある。石包丁状石器に分類できる可能性のある欠損品を含めて11点が出土している。1遺跡からの出土点数がこれまで南房総市恩田原遺跡の10点（安藤・松田，1998）が最大であったので、それを更新し、千葉県内で最多の出土点数となった。また、近傍の多古町埴台遺跡でも6点の石包丁状石器が報告された。長倉宮ノ前遺跡と埴台遺跡を除けば、千葉県内の出土例は弥生時代中期後半から後期で、大半は宮ノ台式期に帰属するものであった（渡辺，2004b・2004c）。前節の土器群の検討にみるように、当遺跡の時期は弥生時代前期末から中期前葉である。また、埴台遺跡のものは再葬墓から出土したもの（副葬か）で、最大の4点を出土した墓壙については土器が出土していないため時期がわからないが、他の2点は中期中葉（出流原式期）の所産であった。少なくともこの2遺跡の成果によって、弥生時代前期末から普遍的に存在した石器の可能性が高くなったといえる。

とくに長倉宮ノ前遺跡の出土資料によって、石包丁状石器の使われた時期幅が大きく広がった。また、現在未報告資料のなかにも荒海4式期の石包丁状石器が出土した遺跡があるようである。仮にかつて知られていたように池上式期以降に使われた石器なのであれば、大陸系磨製石器群のうちの特定の石器あるいは部位を研磨する砥石という見方も成り立つ。ところが、弥生時代前期末から存在するとなれば、加工具として対象となる生産用具を想定することができない。北関東地方においても、弥生時代中期前葉に位置づけられる石包丁状石器が出土した遺跡があり、そこでは打製の刃器と伴出している（井上，1994）。

石包丁状石器の機能については、穂摘み具に特有のポリッシュが高倍率の観察によっても認められないことから、穂摘み具とは異なるとする見解が根強い（山田・山田，1992）。しかしながら、刃部と認められる側の一部に磨耗の強い範囲があるものがあり、その痕跡は幅10cm内外を測る石器においては概ね例外なく認められるものである。長倉宮ノ前遺跡と埴台遺跡の出土石器については高倍率顕微鏡による使用痕観察が行われていないが、肉眼及び低倍率の観察では、穂摘みと考えられる使用痕はみることができない。それでも、他遺跡の例と同様に磨耗の強い部分が観察されたものがある。長倉宮ノ前遺跡出土石器については、今回の報告では詳細な観察結果を提示することができなかったが、埴台遺跡出土石器を含めてあらためて高倍率観察を実施した結果を提示しなければならない。

参考文献

- 荒井世志紀ほか 2006 『志摩城跡・二ノ台遺跡(特)』 香取郡市文化財センター
 安藤杜夫・松田政基 1998 『千葉県富山町恩田原遺跡 県営ほ場整備事業岩井地区埋蔵文化財発掘調査』
 富山町教育委員会

第2節 石包丁状石器について

- 石橋宏克ほか 1991 『銚子市余山貝塚』 千葉県文化財センター
- 石橋宏克・渡辺修一 2001 『成田市荒海川表遺跡発掘調査報告書』 千葉県
- 井上太 1994 『七日市観音前遺跡発掘調査報告書』 富岡市教育委員会
- 加納実ほか 1996 『市原市武士遺跡1』 千葉県文化財センター
- 神沢勇一 1960 「津久井町三ヶ木出土の弥生式土器」『神奈川県文化財調査報告』26 神奈川県教育委員会
- 神沢勇一 1963 「神奈川県三ヶ木遺跡出土の弥生式土器」『考古学集刊』2-1
- 設楽博巳 1985 「関東地方の<条痕文系土器>」『<条痕文系土器>文化をめぐる諸問題-縄文から弥生- 資料編1』 愛知考古学談話会
- 杉原荘介ほか 1974 『千葉県天神前における弥生時代中期の墓址群 明治大学文学部研究報告 考古学 第四冊』 明治大学
- 鈴木正博 1992 「隠蔽された荒海式」『婆良岐考古』14
- 築瀬裕一ほか 1998 『千葉市源町遺跡群』 千葉市文化財調査協会
- 山田しょう・山田成洋 1992 「静岡県内出土の「石包丁」の使用痕分析」『川合遺跡 遺物編2』 静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 渡辺修一 1991 『四街道市内黒田遺跡群』 千葉県文化財センター
- 渡辺修一 2004a 「壺棺再葬墓」『千葉県の歴史 資料編 考古4』 千葉県
- 渡辺修一 2004b 「石包丁状石器」『千葉県の歴史 資料編 考古4』 千葉県
- 渡辺修一 2004c 「石製農具-石包丁状石器について-」『研究紀要』23 千葉県文化財センター